

03

About LDX

ライオンのデジタル戦略

デジタルの力で、新しい時代の習慣を作る。

ライオンには、130年以上にわたり真摯にモノづくりと習慣づくりに向き合ってきた歴史があります。例えば、社内ではハミガキに使われるミントの香料開発。ファーマーの技術と努力が質の高い天然ミントを育て、社内で育成されたフレーバリストが経験と技によって香りを開発しています。社外では、90年以上にわたって全国小学生歯みがき大会の実施など、より良い習慣を提案してきました。

その伝統を継承しつつ、デジタルによる新しい時代の習慣づくりが我々の次の課題です。現在、生活者の隣には24時間365日スマホがあり、テクノロジーに触れる毎日です。そして、ライオンの研究開発部門は、口腔内に関する膨大なデータを持っています。時代によるライフスタイルの変化とライオンの蓄積にテクノロジーをかけ合わせれば、モノだけではなく、今までになかったまったく新しいプロダクトを生み出せる可能性があります。そしてそれは、今後のライオンにとって必要不可欠な機能でもあると感じています。

2023年、戦略企画、情報システム、データサイエンスの3つのグループからなるデジタル戦略部が発足しました。組織のしがらみに左右されない、三位一体スピーディーな組織運営を実現していきます。私たちが持つテクノロジーは、ライオンのモノづくりの成長とより確かな習慣づくりに貢献をしていきます。それは、ライオンを次のステージに押し上げることだと私は信じています。

執行役員

全社デジタル戦略担当、デジタル戦略部担当

中林 紀彦

日本アイ・ビー・エム株式会社においてデータサイエンティストとして顧客支援に従事。

株式会社オプト、SOMPOホールディングス株式会社、ヤマトホールディングス株式会社の執行役員を歴任し、2024年4月にライオン株式会社の執行役員に就任。

LION DIGITAL TRANSFORMATION



データやテクノロジーを駆使して
「良い習慣づくり」のために「習慣を科学する」

行動や習慣を、デジタル技術やデータサイエンスを使って
「習慣を科学する」ことで、人々のより良い習慣づくりに貢献する
新しい製品・サービスを創出していきます。

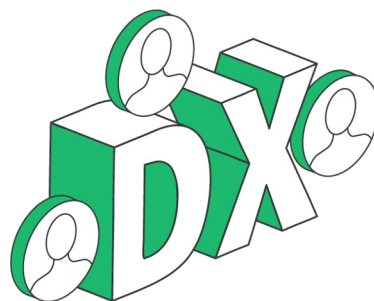
01



データ基盤整備による 未来予測型経営

デジタルを活用して、過去実績・将来予測に基づく施策・改革のマネジメントを可能にし、2nd STAGE実現の蓋然性を高めます。

02



DX民主化による オペレーショナル・エクセレンス

個の成長に加え、全社員対象のスキル別育成プログラムを実施することでリテラシー向上を図り、業務管理や運用効率化による競争優位を獲得します。

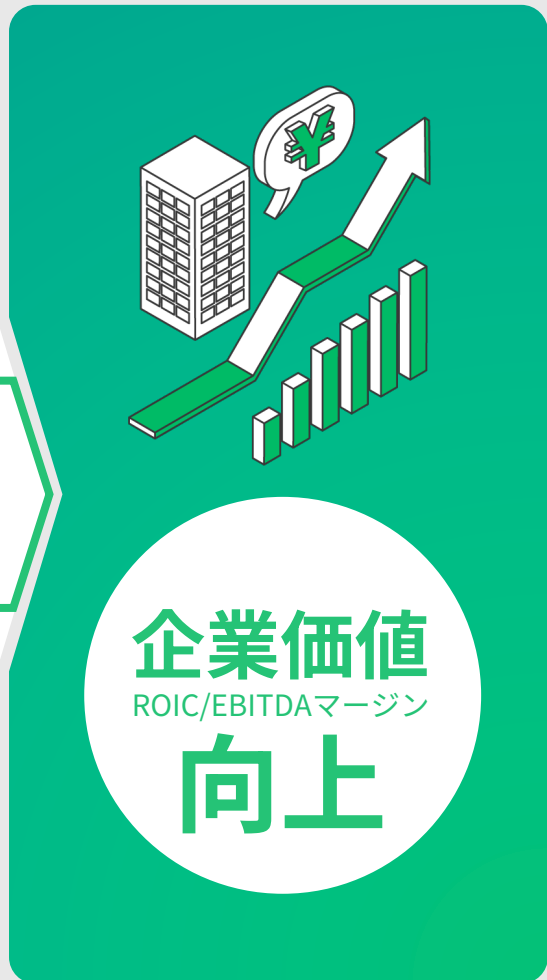
03



デジタル活用による 重点領域強化

デジタルプラットフォーム整備によるオールヘルスケア事業支援を実施。重点事業領域拡充に向けて、柔軟でスケーラブルな基盤構築に加え、データ活用によるユーザー体験の向上を実現します。

デジタル活用による経営管理レベルの引き上げ、 事業効率化・重点領域強化を行い企業価値向上につなげる



※製品の企画や設計から生産、販売、廃棄に至るまでのライフサイクル全体を統合的に管理する仕組み

デジタル戦略部



戦略企画グループ

Mission

- 国内外ライオングループ全体におけるDX戦略の策定・実行
- ライオングループ全体のDX人材育成
- デジタル戦略部員の能力開発



情報システムグループ

Mission

- ビジネスの加速支援
- ビジネスにおけるリスクの低減
- それらを実現するためのITインフラを構築・運用



データサイエンスグループ

Mission

- 専門家集団として、データ分析関連業務全般を実行・支援
- 先端デジタル技術を活用したシステム開発・導入・施策を提案し実行

利益を生み出すデジタル戦略部へ

従来、当社では、20～40年ほど前に原型を構築した多数のシステムからなる基幹システムを利用しており、激しく変化していく事業環境への俊敏な対応という点で多くの課題を抱えていました。しかし数年前、この課題の解決には抜本的な改革が必要と決断し、過去に例を見ない非常に幅広い業務領域を対象とした、業務改革（BPR）を伴う基幹システムの一斉導入に取り組み、2022年に稼働を果たしております。

一方、基幹システム導入と並行し、データサイエンス・マネジメントやアジャイル開発・市民開発、全社デジタルスキルの底上げなどのDXの取り組みも拡大しており、一時期は基幹システム導入と業務改革、DX、従来のITそれぞれを3つの組織で別々に担当していました。組織が分かれていることにはメリットもありますが、リソースの分散や人材育成・戦略徹底における非効率性などのマイナス面もあり、それらを克服し、統一された戦略のもと、会社や業界全体のデジタル変革を主導していくことを狙い、2023年に3つの組織を統合して「デジタル戦略部」を設置しました。この統合により、戦略面でも人材面でもITとDXが高度に融合し意思決定と施策実行のスピードと質が格段に上がってきています。

これまで、私たちは主にシステム基盤や実行体制の整備を行ってきましたが、今後は特にデジタル領域の人材育成・獲得に注力していきます。パートナーと対等に対話したり自らプロダクトを開発したりするなど、高い専門性を発揮し、利益ドライバーの多くがデジタル技術によって構成される会社に変えていくことを目指しており、デジタル戦略部はその変革を先導する存在でありたいと思っています。

デジタル戦略部長

木下 陽児

1994年に研究職として新卒入社。研究部門IT担当、経営企画、SCM部門等を経て2019年からBPR推進部長として基幹システムの全面刷新を主導。2023年より現職。

Mission

- 国内外ライオングループ全体におけるDX戦略の策定・実行
- ライオングループ全体のDX人材育成
- デジタル戦略部員の能力開発



戦略企画グループ マネージャー

菊池 智裕

2011年ライオンに新卒入社。営業職や通販領域のマーケティング、事業統括業務を経て、2018年にコンサルティングファームに転職。その後、生成AI領域のスタートアップでマーケティング・営業を管掌した後、2024年にライオンにジョブリターンし、2025年より現職。

全社戦略とデジタルを繋ぎ企業価値向上に寄与する

戦略企画グループは「グローバルDX戦略の立案・推進」「全社員のDXリテラシー向上」「デジタル戦略部員の能力開発」の3つのMissionを持ち、ライオンの全社戦略とデジタルを繋ぐ役割を担っています。

ライオンの中期経営計画(Vision2030)は9カ年計画で現在は2025年から2027年までの2ndSTAGEに突入しています。2ndSTAGEにおけるデジタル戦略は、「経営情報整備」「人的資本経営」「新規事業支援」の3つを重点領域とし、各バリューチェーンで13テーマを策定しています。例えば、「経営情報整備」では各部門に散在している施策粒度でのデータを集約し、過去データやトレンドを分析することで、複数の将来シナリオを想定可能にしていきます。また、各シナリオにおけるインパクトやリスク評価から、不確実な未来に対する意思決定の高度化も行っていきます。人的資本経営ではデジタル関連施策をリードする「デジタル活用人材」の育成に注力しており、国内約3,000人のデジタルスキルを可視化した上で、2026年度までに国内従業員の約30%にあたる1,000名を育成する計画です。

Mission

- ビジネスの加速支援
- ビジネスにおけるリスクの低減
- それらを実現するためのITインフラを構築・運用



情報システムグループ マネージャー

土谷 一郎

1998年新卒入社。営業職から統合システム部に異動し、その後は営業や基幹業務の改革に従事。2023年より情報システムグループのGMに就任。

経営と現場をダイナミックにつなぐ情報システムへ

情報システムグループは、システムの安定稼働やセキュリティ対策の強化をしながら、業務部門と協力し最新のIT技術の導入などに取り組んでいます。我々は日々の活動の中で、営業や研究など、現場で活躍している人から経営層まで、幅広いメンバーと関わらなければなりません。各組織の戦略をしっかりと理解し、各組織がシステムやデータを活用することでデジタル化を後押ししていく。社員や会社を動かし、お客様に新たな価値を提供する幅広い仕事だと感じています。現在掲げているデジタル戦略においては、全社で今どのようなデータが、どのようなタイミングで取得できるかを考え、全社のデータを集約し、活用できるデジタル基盤を整備する役割を担っています。

情報システムグループのミッションは、ビジネスを加速させる、ビジネスにおけるリスクを低減する、それらを実現するためのITインフラを構築・運用するといった3つになります。どこの会社でもこの3つは一緒だと思っていますが、業務を無視して情報システムの仕事はありえません。当社のベストを探って作っていくことを目指しています。

また今後は、国内だけではなく、海外拠点も含めたグローバルでの情報システムを設計し、デジタル戦略が国内外問わず実現できるようにすることも、我々のミッションに加わると思っています。

Mission

- 専門家集団として、データ分析関連業務
全ての対応を実行・支援
- 先端デジタル技術を活用したシステム
開発・導入・施策を提案し実行



データサイエンスグループ マネージャー

山岡 晋太郎

2000年新卒入社。生産技術職として生産プロセスのスケールアップ検討に従事した後、新規事業開発部門へキャリアを移す。さらにDX推進部門へ異動し、2023年よりデータサイエンスグループGMに就任。

LIONのデータをどう使うか？

経営改善からプロダクト作りまで広範囲の データ活用を推進する

データサイエンスグループは、ライオンでもっともデータサイエンスに関連する知識・スキル・情報を有した専門家集団として、各部門と連携しながらデジタル戦略の13テーマの目標達成に貢献することがミッションです。経営戦略に関わる13テーマはきわめてスコープが広く、社内のさまざまな事業に関わります。またデータサイエンスグループのメインスコープはデータ分析ですが、機械学習や深層学習、時系列予測、医療統計など縦にも深いことが特徴です。

この広範な活動を支えるのは、多様なスキルセットを持つチームメンバーです。データサイエンスやデータ基盤構築、クラウド構築に関する知見が深いメンバーや既存のドメインに強いメンバー、アカデミックな研究メンバーなどが揃っており、それぞれが持つ専門知識と技術を活かして業務に対応しています。

取組事例としては、社員の医科・歯科健診とレセプトデータ分析により、健康リスクの要因やオーラルケアの影響を解明し、医療費適正化や健康経営高度化の実現を目指しています。また、経営指標の可視化や、計画達成に向けた未来予測に基づく意思決定の最適化、改善因子の迅速な把握とシミュレーションによる意思決定のスマート化などによる経営管理骨格強化にも取り組んでいます。



古くは1980年代に構築された
複数のシステムで運用していた。

2018年～
基幹システムの刷新と
全社横断での
業務プロセス改革

生産・販売・在庫管理データなどのサプライチェーンマネジメントに
関わるシステムを全面的に刷新

より速く的確な商品供給を実現



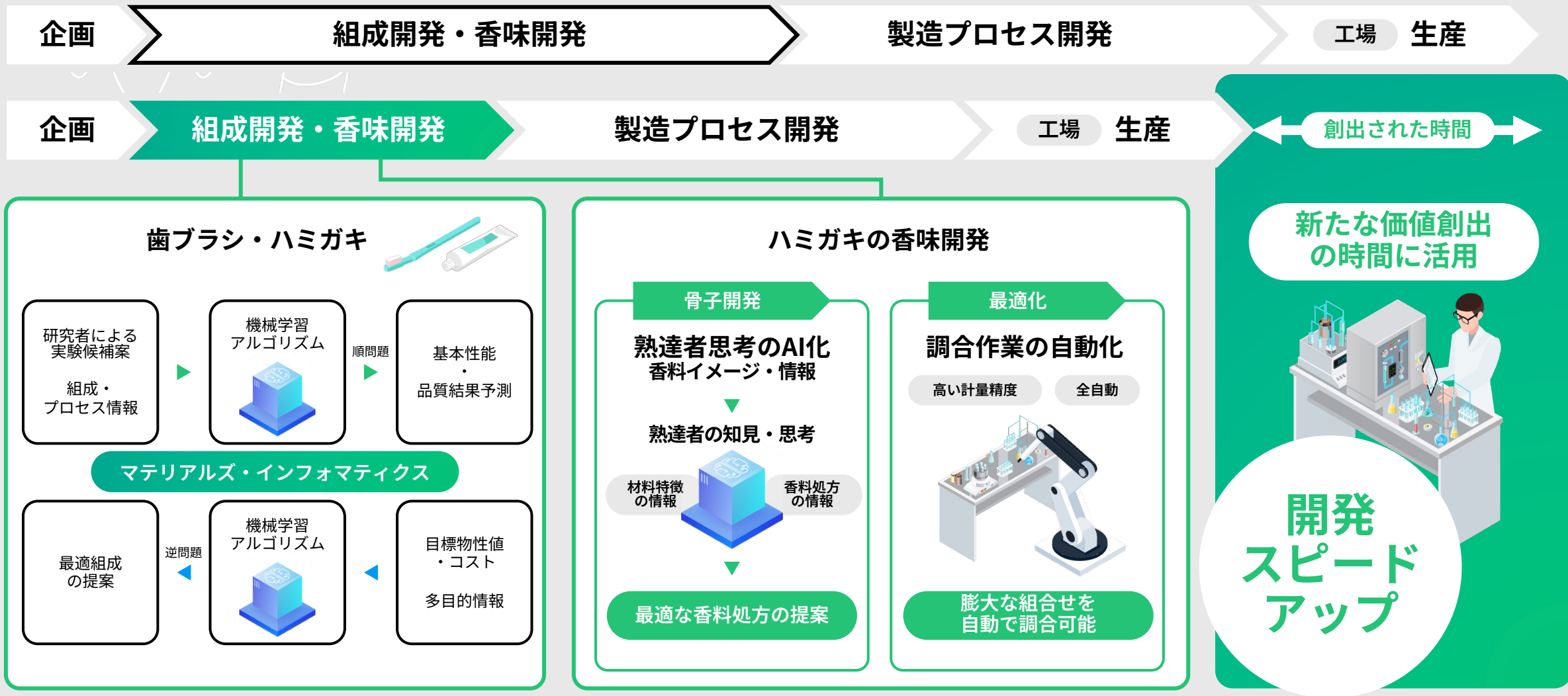
- 各業務プロセスが可視化
- データがリアルタイムでつながる
- 統一したシステムで、連続性のあるデータ取得が可能

在庫削減

トレーサビリティ
の向上

原価管理の
精度向上

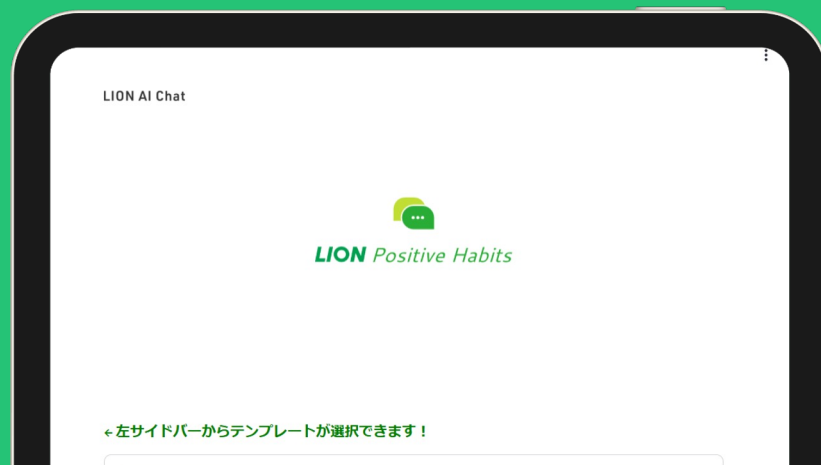
データと研究員の知見を デジタル融合させた新しい業務体験



「全社普及」と 「領域別の活用具体化」の2軸で推進中

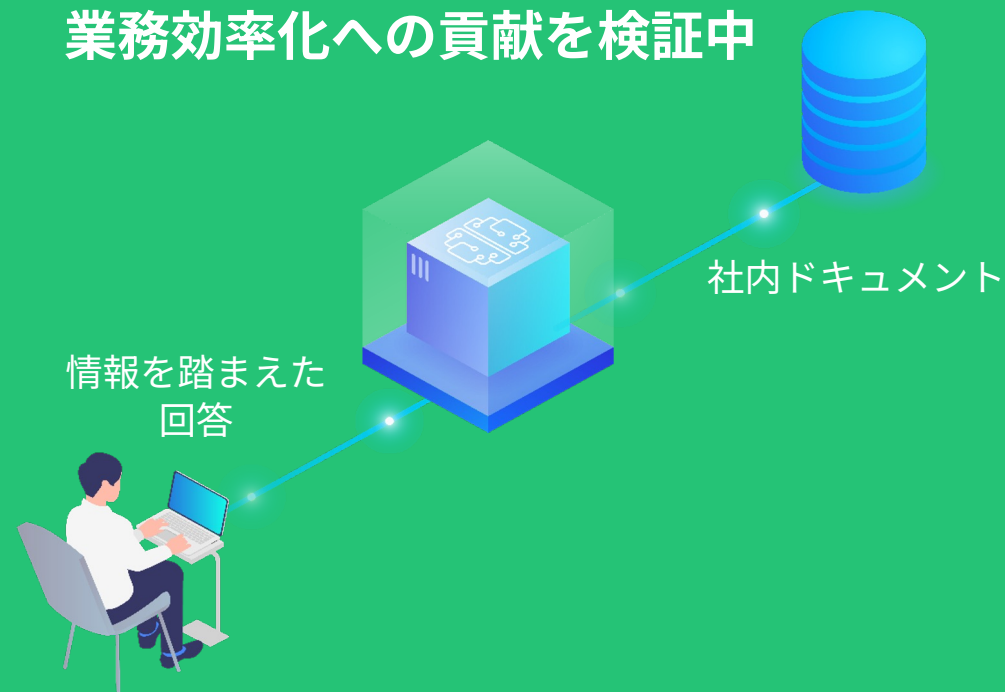
活用促進

- 全社向けの生成AIを活用できる場として提供
- 利用促進に向けて、普及活動や用途拡大の取り組みを推進中



社内データとの連携

各組織の情報に基づいた回答を生成することで、組織課題の解決や業務効率化への貢献を検証中



機密性の高い社内の情報を
安全に取り扱うため

内製での開発を選択

世の中の技術進歩が速い中で、
比較的自由に技術検証を実施するため

社用
webアプリ
登録なく
誰でも使える



各クラウド事業者の契約準拠 & データの安全性確保

LION AI Chatでは

データが2次利用されない

データが外部から閲覧されない

社給PC LIONET

ブラウザ接続 Edge, Chromeなど

※左サイドバーからテンプレートが選択できます！

機密情報は入力可能です。個人情報等のデータの取扱については、LION AI Chatガイドラインに則り適切にご利用ください。

メッセージ送信

会話のクリア

一般的なブラウザ起動

各自で
ログインや
規約への
同意が必要

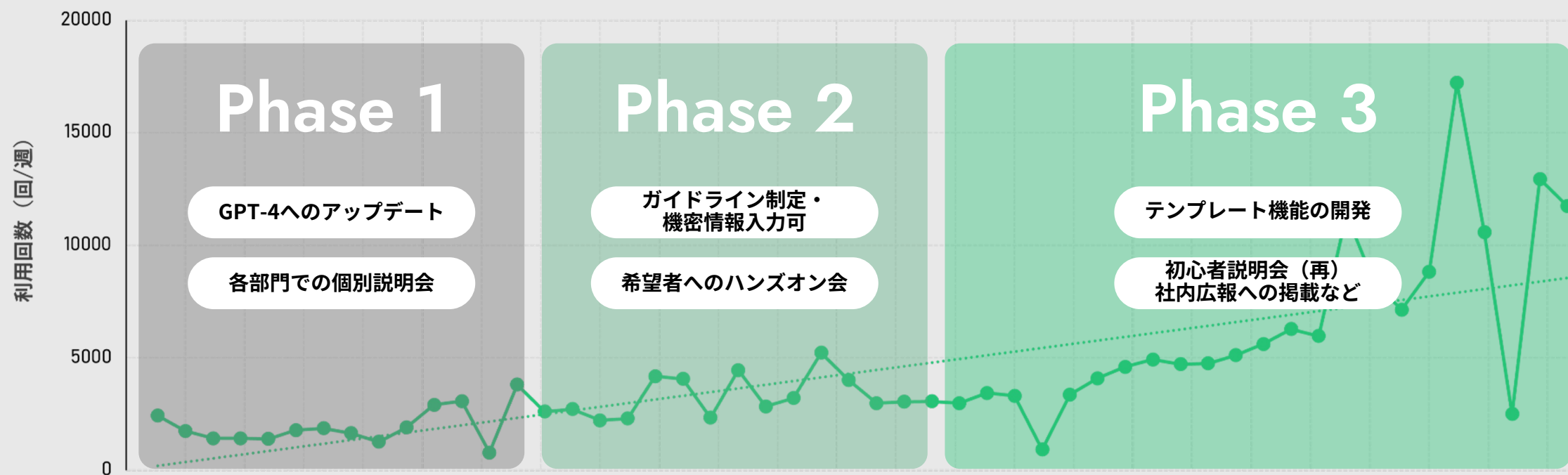
各AIサービスの通常利用では

⚠ 学習データに2次利用される

⚠ 外部環境にデータが保存される

これまでの利用状況

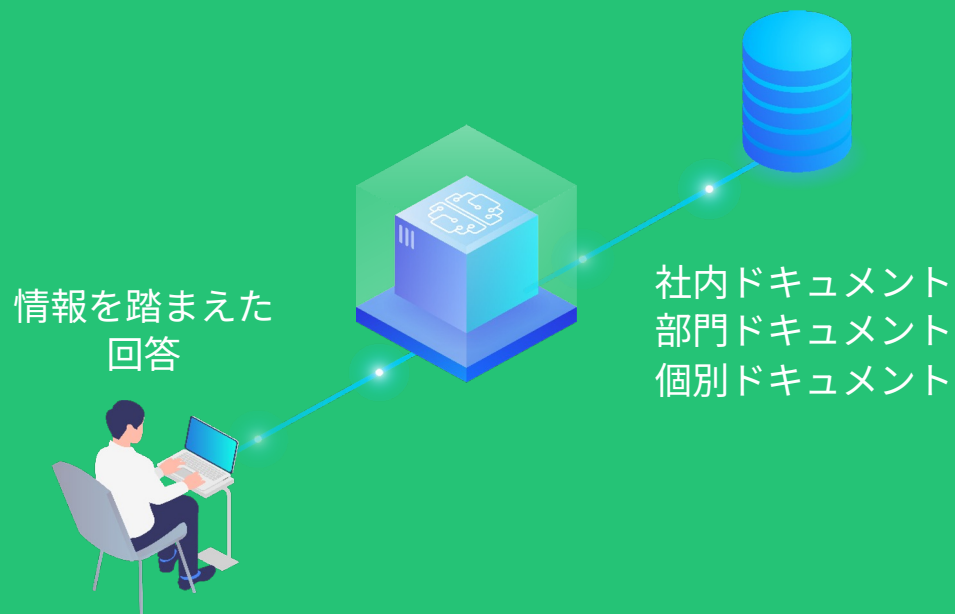
- LION AI Chatの機能開発やガイドライン制定と、普及浸透活動を両輪で実施
- 直近の週間利用回数が**平均10,000回**を突破
- 現在はLION AI Chatの機能拡充と社内情報連携の2軸で進め、活用促進



生成AIを「民主化」して 自分専用のアシスタントへ

個別のカスタマイズ

各組織の情報や自分だけの情報に
基づいた回答を生成することで、
自分専用のアシスタントとして活用



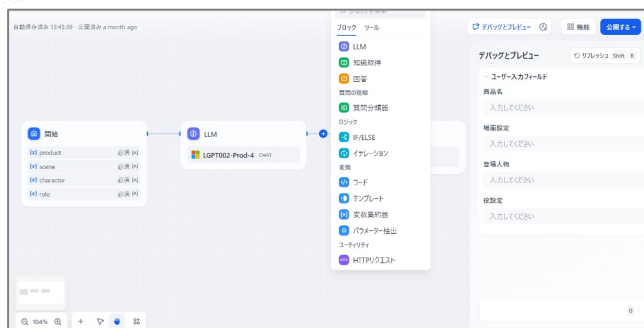
専用アプリ

就業規則についての問い合わせ

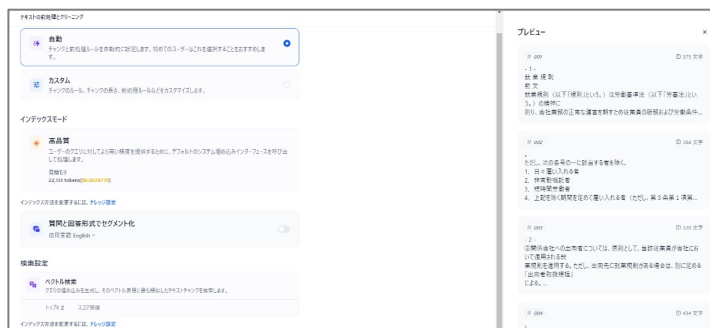


生成AIを「民主化」して 業務特化型アシスタントへ

ノーコードでワークフローを構築



独自データとの連携



UIとのシームレスな連携



- プログラミングの知識やスキルがなくても、ドラッグ&ドロップ操作でアプリケーションを構築可能
⇒ **誰でも直感的に生成AIアプリを作成できるプラットフォーム**
- 作成したツールは、専用のURLを共有することでライオン社員であれば利用可能
- RAG(*)機能を活用することで、組織内に蓄積された独自のドキュメントやデータをもとに回答できる。

(*) Retrieval-Augmented Generation 検索拡張生成

toB／toC向けの プロダクトを展開

子どもから大人まで、幅広い年代のオーラルヘルスケア習慣の支援をしています。

法人向け

健康経営支援サービス



オーラルケアへの興味と実践を無理なく促すウェルビーイングサポートサービスです。

個人向け

子ども向けお口の健康習慣支援サービス



3つのステップで、6歳からの噛む力と、歯ならびの土台づくりをサポートします。



ゲーム感覚で楽しみながら、仕上げみがきの卒業をサポートするプログラムです。

法人向け 健康経営支援サービス

ライオンが保有する膨大なオーラルケアに関するデータや生活・オーラルケア習慣などのデータに関するアンケート回答をもとに、口腔内の健康状態が見える化。おくちから全身健康への意識を高めるサービスを提供しています。



オーラルケアへの興味と実践を
無理なく促すウェルビーイング
サポートサービス

サービスご提供人数
40,000人突破

施策受講従業員満足度※
94.9%
※ N=3,644、2024年9月末時点

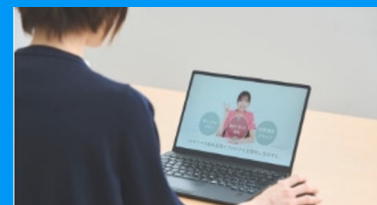
おくちプラスユーの4つのサービス

オーラルケアセミナー



オーラルケアに関する情報を専門家がリアルタイムで講演するセミナー

e-ラーニング



オーラルケアに関するさまざまなテーマの動画を配信

唾液検査



おくちの健康状態が見える化する唾液検査

おくちの健康スコアチェック



アンケートに回答して、歯と歯ぐきの健康スコアをチェック

個人向け 子ども向けお口の健康習慣支援サービス

子どもの成長に合わせたオーラルケアプログラム『おくち育』。

おくち育

子どもの成長段階に合わせ、きちんとした歯みがき習慣づくりや、良い歯ならびの土台づくりを支援するオーラルケアプログラムです。

幼少期の頃からオーラルケア習慣を身につけることで、お口の健康や成長につながるとともに、毎日の生活リズムを整える、ひとりでやりきる力を身につけるなど、将来のさまざまな「生きる力」を育みます。

お口の健康習慣支援プログラム『噛もっと！』



「歯ならびの土台づくり」が重要な6～12歳の生え変わり期の子ども向けプログラム。AIアプリで歯ならびチェック、月1の噛む力をチェック、毎日の噛む力を育む『噛もっと！グミ』の3点でセットで、成長過程におけるお口の不安を解消します。

子ども向けハブラシ『まほうハブラシ』



専用のハブラシとアプリを使って「きちんとした歯磨き」を身に付け、仕上げ磨き卒業をサポートするプログラム。最速1か月程度で、子どもがゲーム感覚で楽しみながら歯みがきスキルの定着を目指せます。